

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理⑩

—キンモクセイ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

秋に公園や街中を歩いていると、どこからともなく良い香りが漂ってきます。それはキンモクセイの花の香りです。ジンチョウゲやクチナシとともに香りの良い花木の代表選手です。今回はキンモクセイを紹介します。

1. 特徴

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木で、ギンモクセイの変種です。中国南部が原産で江戸時代に渡来した花木です。秋になると小さいオレンジ色の花を無数に咲かせ（図-1、2）、芳香を放ちます。非常によい香りがするので、公園や庭に植えられています。芳香はギンモクセイよりも強いです。

「キンモクセイはなぜ実がならないのですか」という質問がよくあります。キンモクセイは雌雄異株で、日本に入ってきたのは雄株のみであり、雌株が入ってこなかったために実がならないのです。

なお、本来のギンモクセイも、庭や公園などに植えられています。キンモクセイより一足早く花が咲きますが、香りが少ないのと花の色が白いので（図-3）、ほとんど目立たない花木です。

2. 維持管理

日当たりのよい場所を好む花木です。周囲の状況をよく判断し、建物や他の樹木の陰になるようなところに植えるのは避けてください。日照不足になると枝が細長くなったり、常緑樹なのに葉を落としたりすることがあります。

適度な湿り気のある肥沃な土で良く育ちま



図-1 キンモクセイの花。

2012年10月19日撮影。

す。この点にも注意して植えてください。

この花木は、春に伸びた新芽に8月上旬頃に花芽が作られ、その年の秋に開花します。花木の中では花芽形成から開花の時期までの期間が最も短いものの一つです。剪定は秋の開花後から、翌春の4月までの間に行います。それ以降は、徒長枝などを切る程度にします。刈り込みに耐え、よく萌芽するので、好みの樹形に仕立てることができます。

さし木で増やすことができます。作業の適期は6月から7月の梅雨時期です。今年伸びた新しい枝の先端を10~15cmの長さに切り取り、切り口を斜めにカットして水に2~3時間挿して十分に水揚げをした後、赤玉土など水はけの良い土に挿して乾かさないように管理します。



図-2 キンモクセイの花を拡大したもの。2009年10月13日撮影。



図-3 ギンモクセイの花。

2012年10月5日撮影。

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。